

三好市まちづくり条例を考える市民委員会 ワークショップのまとめ(第4回)

テーマ「三好市のいいところ・課題」(コミュニティ・市民参加)

1. 市民と行政の関係

□市民と行政の距離が近い

- 地域と行政のコミュニティが良い
- 職員に知合いが多く、気安く物が言える
- 地方への連絡は早い／行政からの連絡は行き届いている
- なでしこ祭りなどに協力してくれる(行政の職員)
- 地域に市の職員がいるので助かる
- 何事も相談しやすい
- 親しみやすく、お互い協力できる
- 職員が地域経済を支えている

□合併によって市民と行政の距離が離れつつある

- 合併後は職員、議員数が多い
- 地域の要望に対して対応が遅い、回答が返ってこない
- 市民と行政の繋がりが離れている
- 市となり、旧山村との連携は減少
- 自主防災組織が出来ているが、行政の応援が少ない

□総合支所が市民と行政の接点である

- 10年後に支所をなくす方針だが、支所はなくさないでほしい
- 総合支所があるので、地域住民はある程度助かっている
- 旧役所は入所しやすい

□地域の核として小学校が大事

- 財政状況を考えていく必要があるが、学校休校は将来的展望に立った施策ではない

2. 人・コミュニティ

□地域活動への参加は活発である

- 吉野川の清掃ボランティアに毎月出席する
- 祭りなどは地域の人がよく参加する
- 町内会の活動に参加する（自治会長の役割大）
- 「手間がえ」（お互いの助け合い）があった
- 消防団、防災活動が活発／消防団の団員数が多い（1400人）／分団の活躍
- 自主防災組織がほぼ確立されている

□良好なコミュニティ、地域の助け合いが大事

- 姿を見なくなったと思うと施設に入っている
- お年寄りにとって住みやすい街なのか
- 孤立した老人が少ない／孤独死がない
- 朝、元気な高齢者宅では旗を立てる
- 地域の中で支え合う関係を創ることが大事

□人材の育成が大事

- 地域のリーダー育成
- 自立の精神に欠けて行政に頼る、自分が努力しない
- 合併となっても、以前はこうだった！（島国根性）
- 市民が一体となれるような仕掛けが必要（運動会など）
- 活動している人が限られる／いつも同じメンバー

□コミュニティを支える人材の高齢化が問題

- 中間層年齢者（60～70歳）が活動の中心となっているが、現状維持が難しい
- コミュニティの団結力が弱まりつつある地域もある
- 若い人の参加が少ない
- 合併により高齢化、少子化

3. 地域の一体化

□旧町村の地域間交流が課題

- 公民館交流をしているので、他の地域の活動がよく分かり良い（ぜひ6町村でも）
- 女性会では各地域と交流している
- 地域交流ができればいい！
- 行事が重なり参加できない

□中心地の魅力アップと地域の個性を活かす方策を！

- 池田の中心地に活気がない／合併したのに池田に魅力が出ない
- 本庁中心主義
- 池田町中心
- 住民が努力していない
- 旧町だと行事に補助金が出たが、今は無いため継続できない地域が衰退している

4. 政策課題

□ごみ行政が問題

- ごみの回収が少なくリサイクルの日を多くしてもらいたい
- ごみの回収回数が多い
- ごみの出し方、リサイクル等が分かりにくい
- 分別の指導をもっと地区でやってほしい
- 山間部までごみ収集に入っているが、経費節減のためごみの野焼き特区を設けてはどうか（従来はできていた）
- 生ごみ処理をもっと考えるなどすれば、浮いたお金を他に回せるのでは
- ごみの焼却費用を削減し、他の活動、福祉へ回してほしい
- 住民がもっと工夫すべき
- 市は、住民が出した資源物の売却金を還元すれば意識が変わるのでは
- ごみに対する意識

□観光行政の課題

- アートの街で人を呼ぶ
- B級グルメ（そば米など）

- もっと資源を掘り起こしていくべき（ふすまカラクリのような）
- 案内版が少ない
- 観光協会が皆、祖谷の方に引っ張るため池田に人が来ない
- 道が狭い

□イベント・催事の課題

- 文化祭が分散しているので魅力がない
- 参加しても池田では人が来ない
- 予算が限られるため、今後一カ所になっていくのでは
- 講演会を開催しても参加が少ない
- 魅力のある講演会が少ない
- 平家祭りは旧東西祖谷合同で出来た

□行政の方向性や政策課題

- 行政の示す将来像が見えない。市に計画性があるか？
- 市は道路の管理が出来てない
- 水道化の遅れ（山間地）
- 農業、林業に対する指導、援助が少ない
- 規模が大きくなり、山村部への補助等減少（除雪など）
- 中央（国、県）とのパイプが細い